

⑨ [氷嵐による田畑荒詳細報告のため出府の申達]

未年 7 月

はたもと

上州には、將軍の直臣である旗本が治める村（知行所）が数多くありました。

緑野郡高山村（藤岡市）を治めていた旗本筒井氏は、史料の中で、雹^{ひょう}とみられる「氷嵐」による田畑の被害を心配しています。知行所の村々に対して、江戸へ出府して報告するよう求めており、殿様（旗本）と村が密にかかわっていたことが分かります。



藤岡市高山 坂本祐一家文書

P 8 2 0 2 ・ No. 9 9 0

【⑨】「氷嵐による田畑荒詳細報告のため

出府の申達」

〔釈文〕

以二一紙二致三啓達一候、然者去廿九日

其村方下組氷嵐^ニ而田畑共多分

荒候趣、小前共申出候^ニ付、役人中

見分致候由、尤此節之義^ニ付、

作毛格別之痛^ニも有^レ之間敷

存候得共、

殿様^ニ者殊之外御心配之御様子

恐入候、尤右様年々之事^ニ付

御不興之段^者可^レ為^レ有事^ニ候、

孰れ^ニも三人之内老人^者出府有^レ之、

猶委敷言上可^レ有^レ之候、先便既^ニ

頼母子講之儀^并外御用談も有^レ之候

ニ付、庭谷村友右衛門^江出府被^ニ

仰付一候、其節其村方^江も老人

出府之儀申達候間、定^而承知

有^レ之候義^与存候、左候ハ、幸之儀^ニ

付、友右衛門^与も打合、盆前追々

両郷・両人無^ニ相違一^ニ出府可^レ有^レ之候

右申達候条、如^レ此候、以上

未 筒井

七月六日 用 所^印

高山村

役人中

（藤岡市高山 坂本祐一家文書

P 8 2 0 2 ・ No. 9 9 0）

